

新しい地域づくりのための 交通ネットワーク

細川護熙
熊本県知事

The Traffic Network Needed for More Advanced Provinces

Morihiro HOSOKAWA

Governor, Kumamoto Prefecture

九州の中央部に位置した熊本県は、東に世界一のカルデラを誇る雄大な阿蘇の噴煙を仰ぎ、西は藍色の海が広がる天草の島々。さらに「森の都」と謳われる熊本市を中心に、山と海と緑に囲まれ、恵まれた自然環境の中にある。いま本県では、来たべき21世紀に向けて、「新しい田園文化圏の創造」を目指した新しい地域づくりを進めている。

わが国の近代化の目標は日本全体が「ひとつの姿」になることであった。この120年間、全国どこでも同じ公民館をつくり、同じ学校をつくり、同じ駅前広場をつくってきた。こうした画一的な施策がわが国の近代化に大きく貢献し、見事にキャッチアップを実現したことは事実である。しかし、同時にその画一的で効率一辺倒の施策が、日本人と日本の社会の個性、創造性を極度に衰退させてきた。21世紀を目前にして、世界の中の日本を考える時に、そのことが一番問い直されなければならないと思う。

本県の目指すものは、農業を基幹として各種の産業を振興するとともに、教育・文化に重きをおいて、緑豊かな環境の中で、知的で創造的な活動が営まれる熊本ならではの地域づくりである。

文化でも芸術でも、およそ創造的な諸活動は、自己主張の激しいぶつかりあいの中からこそ生まれてくる。その意味で、東京への一極集中を追認するかのような国の「第四次全国総合開発計画(四全総)」は好ましいものではなく、一極集中は地方の活力をそぐばかりか、国全体のエネルギーの高揚にもブレーキをかけるものだと言い続けてきた。

熊本と東京は航空機で90分で結ばれている。しかし隣県にある宮崎市とは4時間40分、鹿児島市とは4時間20分というのが現実であり、東京への一極集中は交通ネットワークの面にも端的に現われているのである。10年後の本県のありようを規定した「熊本・明日へのシナリオ」では、「新しい田園文化圏の創造」を実現するための最も重要な施策のひとつとして、熊本を中心とした交通ネットワークの構築を掲げている。

第一に九州の中心部に位置した本県の地理的特性を生かし、熊本都市圏と九州各県主要都市圏を150分で結び、日帰り交通圏を目指す、いわゆる「150分構想」。第二に熊本空港及び熊本都市圏と県内主要都市を90分で結び、県土の均衡ある発展、地域の活性化を推進する「90分構想」。第三に熊本空港、高速道路等広域交通拠点へ県内各方面から30分で到達できるようなアクセス道路の整備を進める「30分構想」。さらに、海外や県外の諸都市と県内の都市とを直結する交通網の整備を進める、国際間ネットワークの整備等の具体的目標を設定し、その実現に向け取り組んでいる。東京を介さずして、地域と地域、地域と世界とが直接にしかも活発に交流できるネットワークの構築を目指しているのである。

ところで、最近日本では国際化ということが流行語のように言われているが、私は、なんでもかんでも外国や大都会に目を向ける風潮には反対である。大事なことは自分の足元の優れて日本的なもの、その地域ならではのものを改めて見直すということであり、歴史や伝統に則った「個性的なもの」の発露こそ世界にアピールするものだと思う。

私はかつて、パリの川にかかる橋の大半に彫刻が施されているのを見て感銘を受けたことがある。わが国では、橋一つ、学校一つつくるにしろ効率一辺倒、機能中心で、何年かたったら、「耐用年数がきたから取り壊す」ということで、そこには後世に文化遺産を残すという考えが入り込む余地はない。

行政として残せるものは結局文化しかない、残るものは文化しかないと思う。そういう意識を行政の隅々に浸透させながら「新しい田園文化圏の創造」という熊本の地域づくりに取り組んでいるところである。

原稿受理 昭和62年10月20日